月刊
新翔タイムズ
第42号
新翔タイムズ編集室
発行・熊野新聞社

「目標を持った一年を」
―3学期始業式―

1月5日、本校体育館で3学期始業式が行われた。七瀧高至校長は式辞で、目標を持つことの大切さを述べた。メジャーリーグで活躍しているイチロー選手を例に挙げ、「『あきらめず挑戦し続けること』『努力をし続けること』がこれからの人生で必要になってくる。最近は目標を持たない人が多くなってきた。将来を考えるなら皆さんには早くこの一年の目標を持ってほしい」と激励した。

そして「3年生は高校生活も残りあとわずか。学年末考査も、もうすぐ控えており悔いの残らないように頑張ってほしい。2年生にとって、今年は進路にかかわる大事な年。未だ就職難が続いていることを頭に入れ自覚し取り組みをしてほしい。一年生は月末にあるインターンシップを通じて自分には何ができるのかを考え、自分の適性を探そう」と、各学年に今学期からの取り組みについて呼びかけた。

式の後、生徒指導部からこれからの生活についてのオリエンテーションが行われ、新年、気持ちを切り替えて残りの学校生活を送るように注意喚起した。

「マナーアップ新翔」
のぼり立て通学路などで登下校指導

1月5日の始業式の朝から10日までの3日間、育友会の協力を得て、全教員で登下校指導を実施した。登校時はJR紀伊佐野駅、通学路、校門に午前7時50分～8時35分まで、下校時はナカミチ前、ローソン前、佐野駅に午後3時台と5時台の電車時間に合わせて行った。

登下校時のマナー、モラルの向上と、交通マナーの遵守を目的に、毎月1回実施しているもので、今回は厳しい寒さの中で延べ12名の保護者の皆さんが協力。「マナーアップ新翔」ののぼりを立て、腕章を着用して、生徒一人一人に声を掛けた。

担当の先生によるコメントは次のとおり。

「この3日間で、早く気持ちを切り替え、3年生は学年末考査、卒業式に向け最後まで気持ちを緩めることなく、自覚ある行動を心掛けてほしい。また、1・2年生も大きな学校行事もあり、基本的生活習慣や服装・頭髪から自らの行動を見直し、行事に臨み、最後の学年末考査で満足のいく結果が残せるよう、学校生活に取り組んでもらいたい」。

1年間の成果を発表
3年生、各テーマで調査研究

1月11日5限目にキャリア実習室で、3年生「総合的な学習の時間」の学年全体の研究発表会を実施した。毎年行われているもので、総学の授業のうち調査研究制作を選択した生徒62名が、それぞれのテーマで6つの班に分かれて1年間研究。その成果をレポートにまとめ各班の代表が発表した。

調査研究制作のテーマは▽A音楽・書道（5名）▽B美術（8名）▽C家庭（9名）▽D家庭・社会・福祉（9名）▽E体育（11名）▽F情報・心理学・理科・進路（20名）。

発表は、A「書を通してくらしに彩りを」3組前川有紀さん、B「無彩色について」2組廣田明日香さん（2組石倉多希子さん代読）、C「アレルギーを誘発しやすい食べ物について」1組渡里沙紀さん、D「スイーツについて」3組津呂玲那さん、4組木下あいさん、4組田中美咲さん、E「足のケガの応急処置について」4組鈴木麻衣さん、F「ブライダルについて」4組山路はるかさんがそれぞれ行った。

今年度は、台風12号の影響で授業時間も少なく、各班での発表と2階渡りローカへのレポート・作品の展示はできなかったが、調査研究制作以外の生徒も全員発表を聞き、書道、美術の分野の発表時には、制作した作品を各自が持ち披露した。また、研究の成果をまとめたレポートをただ読むだけではなく、パワーポイントを使って発表した班も3組あり、視覚的にもわかりやすい発表となり、研究の成果がより一層わかる発表会となった。

◆先生の紹介◆
横嶋希和先生

英語科の横嶋希和です。進路指導部、1学年の担任をしています。担任をしていると、一人一人の「持ち味」を生かした「役割」が徐々に見えてくるのが、楽しみの一つです。リーダーシップや特技を発揮し始める人、言葉数は少なくてもそっと手助けをしてくれる人、雰囲気を和ませてくれる人。体育祭や文化祭で、各自の「持ち味」がうまくブレンドされて、一つになる瞬間を感じると、嬉しくなります。自分の「持ち味」を生かした、「役割」が必ずあります。その「役割」に必要な「才能」を、自分の中から掘り起こして磨く道具が、勉強やスポーツ、そして様々な環境での人間関係であると思えます。英語Ⅰの教科書に、「才能」が、〝gift〟と表すとあります。〝gift〟が「贈り物」という意味からです。「受けるより、与える方が幸いである。」という言葉があるのですが、その贈り物である才能は、誰かのために使って、自分も周りも幸せになるために与えられたものだと思えます。私自身は、職場においても、家庭での子育てにおいても、日々反省、訓練中で、与えてもらってばかりの毎日。周りの先生方や家族の、「役割」にたくさん支えられています。私も、生徒のみなさんと、与えることができるように、成長していきたいと思う日々です。

クラブ紹介
茶道部

茶道部は毎週水曜日の放課後、本館3階の礼法室で活動しています。3年生が昨年の文化祭で引退し、現在部員は2年生4名、1年生10人の計14人で、阪口朝子先生に指導をしていただいています。全部員、入部当初は茶道未経験者でしたが、稽古を積み重ねることによって、2、3年生になったときには文化祭で御点前を披露できるほど上達しています。4月、挨拶の仕方を教わり、お抹茶を飲むだけだった1年生も袱紗さばきにようやく慣れ、最近は御点前を少しずつ習い始めているところです。部員たちは心地よい緊張感のなか、茶道を楽しんでいます。

2年1組が「みさき」訪問

1月16日、2年1組が老人保健施設「みさき」を訪問し、お年寄りの方々と塗り絵の作業を行った。総合的な学習の時間の一環。2年生が一クラスずつ訪問し、福祉の現場を体感することが目的。

生徒たちは、初めての体験に緊張しながらも、お年寄りの方に寄り添い、おしゃべりをしながら一緒に塗り絵の作業を楽しんだ。短い時間であったが、お別れの時にはあつい握手を交わすグループもあり、親しく活動することができていた。

活動後、「最初、どのようにすればいいのかわからず、戸惑った」「毎週行きたいくらい楽しかった」と感想を話していた。

先輩が先生

▽販売職　会議室　ドコモショップ新宮店店長・北泰宏先生

販売職に興味を持つ生徒41名がドコモショップ新宮店店長北泰宏先生の話を伺った。7つのグループに分かれて「仕事を始めたきっかけは」「接客業で気をつけていることは」などの質問を考え、答えてもらいました。後半は、これまで経験されたことを通し感じたことを話され、「自分が本当になりたいものをよく考えること」、「ビジネスマナーを身に付けておくこと。始業の15分前には準備をすること、早い人では30分前に準備している」「あいさつは上下関係なく気づいた方から」「報告するときは結論から。そうすれば相手に伝わりやすい」「自分の意見を持ち、相手に伝えられることが大事」など、社会人としての心構えにとどまらず、これから進路を選択、決定していく生徒達にとって指針となる助言をたくさんいただきました。

▽新宮で活躍中の本校先輩の美容師「boy ext」の店長・竹中博行先生、「アメイロ」の店長・楠本恭一先生

二人に来ていただき、有意義な時間を持てた。竹中先生からは、美容師になる2つの方法、美容師の専門学校に進むか、あるいはお店に就職して働きながら通信で免許をとるかという具体的な説明もありました。後は2つのグループに分かれてプロが実際使っているはさみ、櫛などを触らせてもらい、人形を使ってカールのつけかた、髪を真っ直ぐにする方法を順番にさせてもらった。自分が髪をカットしてもらっているときは美容師さんの手の動きなど分かりませんが、今回よく分かりました。

▽一級建築士・城将充先生

城一級建築士事務所の城将充先生は、大学を卒業後、建築の仕事にずっと携わってきた。また、これまでに設計された建築物の中には、本校のプールもあるそうです。家は100を越える業種の人たちが関わって建てられることから、建築業は人との関わりが大切で、建てようとする人の生活や趣味、色の好み等まで聞いて設計しなければならないこと。以前構造設計に関する建築士の事件もあり、新たな資格に構造設計一級建築士が創設され、建築基準法は年々厳しくなっていることなどを紹介。自分自身が様々なことに対して勉強が必要であることを強調し、建築の仕事は奥が深いと語った。

▽製造職　たぬきや・平見一雄先生

明治43年創業のうどん屋「たぬきや」から、現在4代目のご主人である平見一雄先生は、幼い頃から父や祖父の働く姿を見て育ち、その中で感性や技術を習得していった。上下関係が厳しいといわれる調理の世界で、働き出して33年になる。講演では、先生の経験から学んだことが中心で、生徒たちもメモをたくさん取っていた。例えば、客商売では、お客様と会話ができるよう、薄く広くでよいから教養を身につけることが大事であることや、人間は一人では何もできないのため、「この人」と思う人には連絡をとっておくと、いつかきっと助けてくれるということなど、分かりやすい言葉でたくさんのアドバイスをしてもらった。正社員として就職する前に、働くという経験をたくさん積むことで、修正をしながら自分の職業決定につなげて欲しいと締めくくった。

▽保育士　新宮市立大浜保育所所長・畦越美穂先生

畦越美穂先生は、まず、『はらぺこあおむし』の紙芝居から始めました。生徒は、園児に戻ったように紙芝居を観賞。食べ物は何か、何個あるのかを考えることが発達の助けになるそうです。次に紙皿と色紙、糊を使った『てんとうむしのフリスビー作り』を体験。材料一つでいろんな遊びに発展することを学びました。保育士は、子どもを育てるという責任のある仕事で、個々を尊重しなければいけません。子どもの成長を実感できること、子どもの感情がダイレクトに返ってくることが保育士の魅力であると話され、また、仕事内容や生活習慣の大切さ、保育士になるための資格についても聞くことができました。

▽消防士　新宮消防署・佐藤春樹先生

公務員としての責任や消防士の服務について、地方公務員法や消防法及び消防組織法などで定められていることを紹介。また、救命救助には日々の訓練の積み重ねや継続、しっかりとした知識が必要であると語り、9名の男子生徒は内容のメモを取っていました。生徒から「火事などがない時間はどう過ごしているのか」「消火活動で身につける防護服の重さはどのくらいあるのか」などの質問があり、佐藤先生は熱心に答えてくれました。後半は、生徒の一人が直に酸素ボンベを背負いマスクをつけさせてもらいました。生徒は20㌔㌘近くある酸素ボンベを背負い消火活動にあたる消防士の姿をイメージし、その過酷さと使命感を少しでも感じ取ることができました。